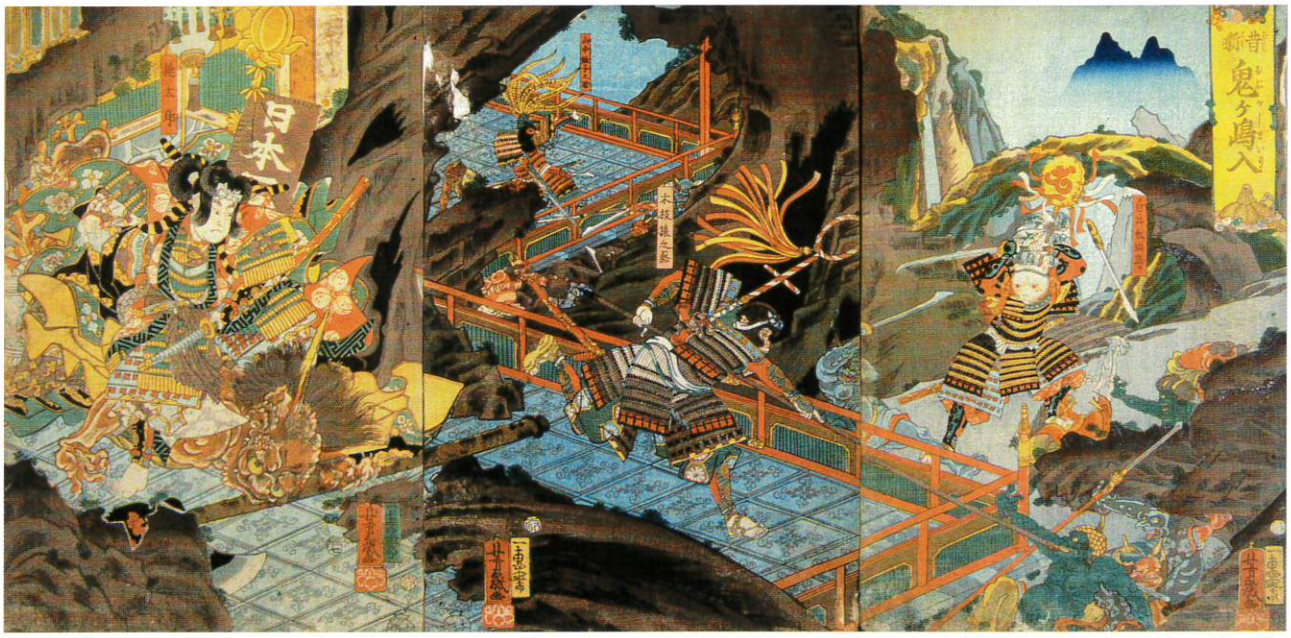
中野区立歴史民俗資料館だより

第44号

しいのき



異界・異郷への憧憬

名誉館長　三　隅　治　雄

当館が所蔵する資料の中に、歌川芳幾（よしいく）の描く、彩色豊かな「昔噺鬼ヶ嶋入（むかしばなしおにがしまいり）」という作品があります。左に桃太郎が鬼をとりおさえ、中央に雉と猿、右側に犬が果敢に戦っています。だれもが知っている桃太郎の鬼退治です。鬼はもともと、荒ぶる神、超人的な神霊の姿とされていましたが、仏教や陰陽道の影響から、いつしか邪悪を象徴する妖怪となってしまいました。そして異郷に住んでいる鬼は豊かな宝物をもっており、時としては人間に幸をもたらすとも考えられています。一方、その鬼を退治して宝物を手に入れる桃太郎は、川から流れてきた桃から生まれました。桃太郎も異界から流れついて誕生した英雄なのです。桃は、日本神話でイザナギが黄泉国から逃げる途中、実を投げつけて悪霊払いをしたことで知られるように、魔除けの果実でもあります。江戸時代の中野村では、江戸城大奥に桃の葉を献上していました。桃の節句では大奥の女性達が無病息災、厄除けを祈っていたことがわかります。科学が発達して、地球は小さくなりました。現代人にとっての異界はいまや宇宙なのでしょうか。いや、違います。異界・異郷は私たちの心の中にあります。そこへの憧憬は、未知の可能性を求める人類普遍の心理なのかもしれません。

文化財よもやま話

資料をみる、文化にふれる

当館で収蔵されている資料の多くは、区民からいただいたいわゆる寄贈品です。生活をする中で使われていたのですが、技術の発達や社会・生活様式の変化で、今はもう使う必要がなくなってしまった、しかし捨てるには忍びない、役立てて欲しいという気持ちから声をかけていただき、受領されてきました。

道具や遺物・文書など、展示や研究で資料は活用されています。それらは、見て触れることができる形あるものとして多くの人の目に触れますが、それを支えている背景は、必ずしも形を認識することができるのではない、音声や動作という無形の力によるところが大きいといえます。

物を作る技や精神、美しさに対する感覚や感性、道具を扱う仕草、動作に伴う唄や言葉・物語などにも、その地域の風土、民族、歴史が養ってきた文化が潜んでいます。目に見える表現は生活文化の氷山の一角、有形文化は無形文化と表裏一体で切り離せるものではありません。

また道具の効率化・簡便化は生活を便利にする一方、季節を読み取る力や美意識にも変化をもたらしました。道具は季節の中で人々に実際使われてこそ、役割や担っている文化が現れます。固定された展示でその本来を知ることは十分とはいえず、いかに背景にある無形の世界にも目を向けてもらえるか、資料を紹介する当事者には課題のひとつといえるでしょう。

文化財への注目は、ますます高まっています。「世界遺産」に登録された文化・自然遺産や、第一回の「人類の口承遺産の傑作の宣言（通称「無形遺産」）」に登録された能楽など、ユネスコ（国際連合教育科学文化機構）の文化振興・普及・保存・保護に関わる活動は日常でも身近な話題として耳にします。

博物館・資料館は、文化財を人々に紹介し後世へ伝えていくことも役割のひとつです。その一環として毎年秋には、各地域で文化財を身近に感じるための企画・公開事業も催されています。この機会に文化財に親しんでみてはいかがでしょうか。

大地に眠る歴史

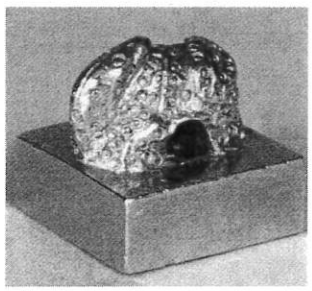
昔の人は遺跡をどう見たか（7）

今回は、有名な志賀島の「金印」発見の顛末についてご紹介します。

今を去ること218年前の天明４年（1784）２月23日、現在の福岡県福岡市の志賀島で百姓の甚兵衛がたんぼの溝を修理していました。そうしましたら、大きな石が出てきましたのでそれをどけたところ、キラリと光るものがありました。

これが有名な志賀島の「金印」発見の瞬間です。

この「金印」は、印面が2.3cm四方の正方形で高さ0.9ｍ、重さは109ｇのものです。表面には「漢委奴国王」と刻まれており、西暦57年に漢の光武帝が九州の奴国の国王に与えたものです。現在は国宝に指定されています。



「国史大辞典」吉川弘文館より

さて、発見者の甚兵衛は、いったいこれは何なのだろうかと、兄喜兵衛のかつての奉公先であった博多の米屋才蔵に見てもらいました。結果は純金製のお宝だったのです。

それからが大変です、村の中はかつてない騒ぎになりました。村民は相談をし、村の鎮守志賀大明神に奉納することになりましたが、神官がうらなった結果、大明神の怒りをかうということがわかり受取りは拒否されてしまいました。

そうこうするうちに噂を聞いた、福岡藩士亀井南冥がこれを鑑定、中国の史書「後漢書」に記されていた「金印」であることが判明したのです。

とうとう、噂は藩主の耳までとどき、福岡藩に差し出されたのでした。発見者の甚兵衛も藩から白銀５枚（50両）をもらい、まずはめでたしめでたしとなりました。さて、この一件、純金というお宝が歴史価値をもって今日まで残されたのには、亀井南冥や福岡藩のお殿様の見識によるところが大きかったといえるでしょう。（つづく）

事業関連特集

伝統工芸に親しむ

長い年月をかけて、人から人へと受け継がれてきた「伝統工芸」は、歴史ある貴重な文化です。この伝統文化を次の世代に引き継いでいくためにも、伝統工芸のすばらしさを再発見し、より身近に感じてもらいたいと、今年度の歴史講座のテーマに取り上げました。

伝統技術を保持し、区内で活躍されている、「中野区伝統工芸保存会」の会員の方を講師に招き、実演と体験を交えた講座を４回にわたり行いました。

＊中野区伝統工芸保存会について

区内で活躍する伝統工芸作家や職人さんの多くは、中野区伝統工芸保存会に所属されています。会員数は29名、職種は19種類にのぼり、活動を支援する研究会員の方もいらっしゃいます。

保存会で力を入れている活動には、年に一度主催する「伝統工芸展」、「中野まつり」への参加、江戸東京たてもの園で行われる「伝統工芸体験教室」への講師派遣などがあります。

また、近年では、区内の小・中学生や地方から訪れる修学旅行生の見学の申し入れが多く、その受け入れなど、さまざまな活動をされています。

＊中野の主な伝統工芸とその製作者

江戸鼈甲	野村勇	新井二丁目
型紙彫刻	久保田巌	松が丘一丁目
木彫人形	藤本英以	若宮一丁目
組紐	福島泰久	白鷺二丁目
佐賀錦	大谷久美子	白鷺二丁目
彫金	内藤伸栄	弥生町三丁目
東京手描友禅	新井米雄	沼袋三丁目
	熊沢吉治	南台三丁目
	小柳津公龍	若宮二丁目
	白鳥末孝	沼袋二丁目
	高橋貞雄	丸山一丁目
	長澤龍二	白鷺三丁目
	橋本育宜	上高田二丁目
東京無地染	西島正樹	本町六丁目
陶芸	飯田民一	南台二丁目
糊画	赤山ひろし	上高田四丁目
箔画	中野光枝	新井一丁目
仏像彫刻	高鹿楡木男	江古田一丁目
盆栽	宮部和政	上鷺宮五丁目
曲物	大川良夫	上高田一丁目
結納台	鈴木慶	上高田四丁目

寄木細工	吉本左泰	上鷺宮三丁目
ろうけつ	大友大	江古田二丁目
和菓子	柿崎勇吉	中野一丁目
	日野賢一	中央五丁目
和人形	松村勢津子	南台三丁目

（五十音順・敬称略）

＊歴史講座実施日程

６月15日（土）	箔画	中野光枝氏
６月22日（土）	江戸鼈甲	野村　勇氏
６月29日（土）	東京手描友禅	高橋貞雄氏
７月６日（土）	木彫りペンダント製作体験（木彫人形作家）	藤本英以氏

第一回　箔画（はくが）

漆工芸の技法の一つで、金を槌で打って、薄紙のように延ばした金箔を用いて模様を描く技法を箔絵といいます。

漆工芸に優雅さを添える金箔の歴史は古く、仏教伝来とともに日本にもたらされました。庶民の間に広がるのは、江戸時代末期のことで、これ以降、庶民の生活に彩りを添える身近な文化として親しまれました。

現在では、金箔の他に粉箔も用いられています。粉箔は、扱いやすいうえ、いろいろな素材に施すことができるため、作品の幅が広がっています。

中野さんは「金箔を使った箔画というものは、美しく、絢爛豪華なもの、そしてものすごく高価

でお金のかかるものです。しかし、金彩幸（きんさいこう）といって、金に彩られた生活には幸せが訪れる…こんな言い伝えがあります。金の仕事をしているので、おかげで私も幸せです。だからそれを何とかみなさんにも身近なものにし、生活に取り入れていただきたいと思ってやっています。」こんな言葉から講義を始めてくださいました。

第二回　江戸鼈甲（べっこう）

鼈甲細工は、カメの種類の中でも、あめ色と天然の斑（ふ）が美しく、甲羅（こうら）の質が装身具や置物の材料に適しているタイマイの甲羅を使って作られています。

鼈甲の歴史は古く、正倉院宝物の中で、琵琶や杖（じょう）などに見られます。江戸で鼈甲細工が作られるようになったのは、江戸時代初期だといわれています。やがて江戸は、長崎・大阪とともに、鼈甲細工の中心地となっていきました。

当初は、甲羅をそのまま使うなど、簡単な細工でした。それが、元禄期（1668～1703）に重ねて接着する技法が広がって、複雑な細工ができるようになり、製品の種類も増えていきました。それに加え、女子の髪形の多様化で、櫛（くし）、笄（こうがい）、簪（かんざし）など、装身具が盛んに作られるようになり、鼈甲細工も発達しました。

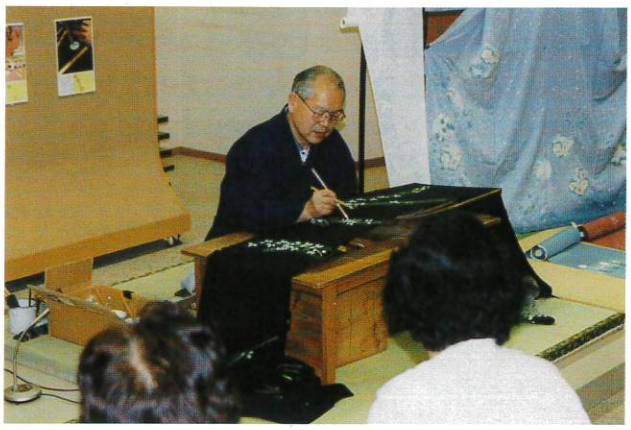
野村さんは、戦前から続く新井二丁目の「やまと屋」の二代目で、先代の野村七三郎氏の元で修行に励み、昭和36年に独立しました。そして62年に師の跡を継ぎ、現在に至っています。

第三回　東京手描友禅（てがきゆうぜん）

友禅染は、京都の扇絵師、宮崎友禅斎が始めたと伝えられています。江戸で友禅染が盛んになるのは、文化・文政期（1804～1830）頃で、大名のお抱え染師等が多く江戸に移り住み、各種の技法が伝承されました。

京都や加賀、江戸で盛んに作られた友禅染の製作技法は、ほとんど変わりませんが、土地の気風が反映されるといわれ、それぞれ色彩やデザインの特徴が異なっています。東京手描友禅は、江戸文化の「いき」の伝統を受け継ぐ、単彩ですっきりしたものに加え、様々な模様表現をしています。

丸山一丁目に工房を構える高橋さんは、糸目友禅を基本とし、ローケツ染併用により、ぼかし技



法を生かした古典的山水調の作風を持ち、平成元年に東京都伝統工芸士に認定されています。構想を練るところから始め、一枚の友禅が完成するまでに約１カ月、物によっては数カ月もかかり、そのほとんどを一人で仕上げていく東京手描友禅は、高い技術と熟練が必要とされます。

第四回　伝統技術の体験

最終回は、木彫人形作家の藤本さんに伝統的な木彫りの技術と木彫りの楽しさを教えていただきました。藤本さんは、日本でも数少ない三つ折人形の制作技術の伝承者で、三つ折人形を始め、さまざまな木彫りの人形を制作されています。

三つ折人形は、江戸時代、大名の子供たちに愛用された、頭や手足の関節が自由に動くように作られた精巧な木製の人形です。着物を着せると市松人形と似ていますが、三つ折人形は、頭部と手足がバランスよく組み合わされており、まっすぐ立たせたり、膝を突いて立たせたり、人間に近い動きができるのが特徴です。動かすとカタカタと木の触れ合う可愛い音がするのも魅力の一つです。

十年以上乾燥させた桐の木から一体分をまとめて取り、留め具にも丈夫な木皮の繊維を撚って使うなど、選び抜いた天然の素材が用いられます。１ブロックの木を14の部位に分け、それぞれの表情を出しながら彫り、バランスをとりながら磨き、その後、胡粉を塗ります。何度も塗る、乾かす、磨くという作業をくりかえし、最後に顔を描きます。

製作工程の紹介

箔画

白いＴシャツに多色刷を施す。

①Ｔシャツの下に新聞紙を敷きます。シャツのおなかの部分にも新聞紙を挟み込みます。

②Ｔシャツの上に型紙（渋を塗った和紙に模様を彫ったもの）と紗の型紙を重ねて置きます。

③専用のハケで、糊を塗りこみます。

④型紙をはずし、粉箔を置いていきます。粉箔を筆にとり、指で穂先を払って箔を落とします。何色も色をつけるときは繰り返します。

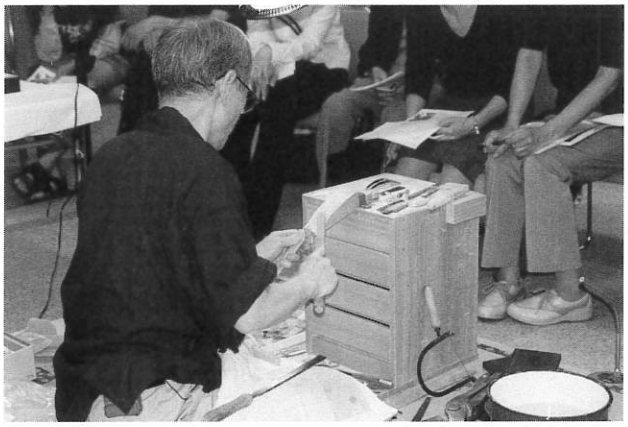
⑤イメージする色を着け終わったら、筆でさすっていきます。

⑥新聞紙を上に置き、その上からこすって、粉箔を押さえます。

⑦余分な箔を払い落とします。

⑧自然の状態で糊を十分乾かします。

⑨アイロンで粉箔を定着させると出来上がりです。



江戸鼈甲

鼈甲細工は、ウミガメの一種で、赤道付近の海に生息するタイマイの甲羅を使います。甲羅はニカワ質を多く含んでいるため、接着力が強く、水と熱で張り合わせることができます。

背中の甲羅は13枚、その縁の爪甲は25枚あります。おなかの腹甲は白く、高価な部分です。

①生地取り…甲羅に製品の形を描きます。

②切り出し…糸ノコで線に沿って切りだします。熱した鉄板に挟んで熱を加え、削りやすいように平たくします。

③粗削り…がんぎという目の粗いヤスリで、汚れや傷などを落とします。ここで、張り合わせる甲羅の厚さを整えます。

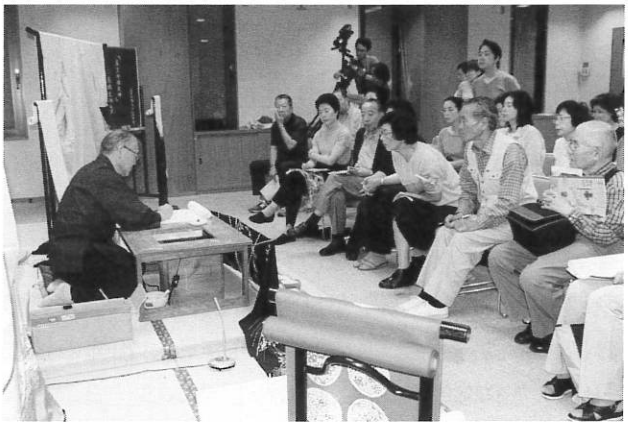
④やすりかけ…トクサ（植物）などで、表面を滑らかにします。

⑤重ね合わせ…斑をあわせて必要な厚みに張り合わせます。数枚の甲羅をきれいな水にくぐらせ、柔らかい糸で軽く束ねます。それを柳などの薄い板にはさみ、さらに熱した金板ではさみ、圧力をかけます。

⑥中削り…小刀などで、表面と形を整えます。

⑦成型…切ったり、曲げたりして、形を作ります。

⑧仕上げ…磨いて光沢を出します。



東京手描友禅

①構想を練り、図案を描く…原寸大の和紙に模様を描きます。着物の雛型に全体の構図、模様の展開、彩色などを書き入れ製作にかかることもあります。

②下絵を描く…着物の形に仮縫いした生地や反物のままの生地に青花（あいばな－ツユクサの花のしぼり汁）で模様を線がきします。

③糸目糊置き…筒紙に入れた糊を模様の輪郭に沿って、細く置いていきます。これは、模様染の色が混ざったり、にじんだりするのを防ぐためで、糊は、もち粉、糠、塩などを混ぜて作ったものです。

④友禅挿し…糊置きした模様の内側に染料をふくませた筆で色を挿します。色がにじまないように下から火鉢などをあて、乾燥させながら行います。

⑤糊置伏せ…友禅挿しをした部分に地色の染料がつかないように、もち粉と糠をねった伏せ糊で覆います。さらに糊の上に糠をまきます。

⑥引染…刷毛で地の色を染めます。

⑦蒸し…染料が生地に染着するように蒸します。

⑧水洗い…糊や余分な染料を洗い落とします。

⑨湯のし…蒸気で熱した金属製のドラムに生地を通して、生地の歪みを直し、幅や丈を整えます。

⑩仕上げ…金箔や銀箔を付着させたり、刺繍を施したりします。

古文書つづり

スポーツにみる 時代相

オリンピックに勝るとも劣らない世界的スポーツの祭典・ワールドカップは、波乱と順当のうちに幕を閉じました。千年にも渉る蹴鞠（ケマリとも）の伝統を誇る国としてベスト16ではやや物足りないとはいえ、1873(明治６)年にフットボールが伝来してから、メキシコ五輪などの一時期を除いてＪリーグ開催までほとんど顧みられなかった競技としてみれば立派な成績といえるでしょう。

さて大会前後にメディアが扱ったのは、試合以外にも競技を通して社会問題を語る記事から少林寺拳法と結びつけた映画まで様々です。が、職務柄物事をなんでも「将来は史料になる」と考えてしまう私は、勝敗ではなく「どの情報が・どのように」という視点から報道を見比べていました。

そこで特に面白かったのは、一つの試合結果が報道する機関によってかなり異なったニュアンスで伝えられたことと、日本代表が負けた後は他の試合の扱いも相対的に小さくなったことです。

一般的に、国際競技会の折には自国意識があおりたてられます。スポーツが自ずと政治性をもつ例でしょう。その逆に、スポーツの名の下で政治や教育が行われる場合も往々にしてあります。

国防体育背囊強行軍
時 五月九日(第二日曜)午前七時(雨天中止)
所 日比谷―浦和
主催 東京市 YMCA
後援 日本基督教青年會同盟

左は「国防体育背囊（はいのう）強行軍」開催案内。長距離ハイクもこういう名称だとリタイアしづらくなりそうです。右は区内の町会の隣組競技会プログラムの一部分。綱引やリレー・玉入れなど現在でもお馴染みの種目もありますが、1942(昭和17)年という時代らしい「敵前上陸」や「防空支度競走」あるいは「真珠湾攻撃」などが目をひきます。

何の気なしに見たワールドカップも、いつかは違った観点から論じられるのかもしれませんね。

中野往来

江戸の美人と御庭番

上高田１－１－10　正見寺

正見寺に［深照院清心大居士］［深教院妙心大姉］と刻まれた墓石があります。これは、柳屋お藤・蔦屋およしとともに「江戸三美人」といわれた笠森お仙とその夫倉地政之助のお墓です。お仙は、谷中の感応寺境内にある笠森稲荷の門前で「鍵屋」という水茶屋を営む鍵屋五兵衛の娘でした。親の手伝いで店に出るうちにその美しさが評判になり、大勢の人が訪れ、繁盛したようです。鈴木春信らが、お仙をモデルに錦絵を何種類も描き、芝居や絵草紙にも登場しました。また、大田南畝の『半日閑話』・『賣飴土平傳』や手まり唄などからも、お仙の評判ぶりがうかがえます。

鍵屋のあった笠森稲荷は、八代将軍吉宗に従って紀州から江戸にやって来た倉地文左衛門が、笠森稲荷の信者で、感応寺から土地を借りて、勧請したものです。こういう縁からでしょうか、お仙が二十歳の時に、お庭番を務める倉地政之助に嫁いでいます。その後お仙は、桜田門内の御用屋敷に移り住み、人々の前から姿を消しました。そして、文政10年（1827）、77歳まで長生きしました。東京地方で歌い継がれたこんな手鞠唄があります。

〽向う横町のお稲荷さんへ
　一銭上げて　ちょっと拝んで
　おせんの茶屋に　腰を掛けたら
　渋茶を出して
　渋茶渋茶と横目で見たらば
　土の団子か　お米の団子で
　まずまず一貫貸しました
　せんそう　せんそう

事　業　報　告

各種事業経過

2002年4月～9月

事業名	内容	期間
企画展	「音わたる風景－中野に伝わる唄と芸能－」	4/16～5/18
	「遺跡発掘速報展－新井三丁目遺跡・成願寺北遺跡の調査結果－」	7/1～9/1
	「春季所蔵名品展－江戸明治絵画の粋」	4/4～6/30
	「夏季所蔵名品展－染付の美」	7/7～9/22
歴史講座	伝統工芸に親しむ	
	「箔画」　講師：中野光枝氏（中野区伝統工芸保存会会員）	6/15
	「江戸鼈甲」　講師：野村　勇氏（中野区伝統工芸保存会会員）	6/22
	「東京手描友禅」　講師：高橋貞雄氏（中野区伝統工芸保存会会員）	6/29
	「木彫人形」　講師：藤本英以氏（中野区伝統工芸保存会会員）	7/6
夏休み教室	学習相談・体験学習（石臼粉ひき・障子張り・土器さわり体験）	夏休期間中
	「勾玉づくり」教室	8/21・22
古文書講座	講師：大友一雄氏（国文学研究資料館史料館助教授）	9/7・14・21
文化財調査	江古田・沼袋地区民俗調査	継続中
	青梅街道周辺地区民俗調査報告書刊行作業	継続中
埋蔵文化財	弥生町六丁目9番民有地立会い調査	4/15
	本町六丁目16番民有地立会い調査	4/17
	東中野二丁目13番民有地立会い調査	5/23
	江原町二丁目21番民有地立会い調査	5/28・29
	白鷺二丁目29番民有地立会い調査	7/2
その他	博物館実習：7大学8名	7/30～8/11
	区内小学校6学年総合学習見学：14校	4月～5月

寄贈資料一覧

2002.4月～8月
敬称略　受入順

資料名	点数	氏名
つるべ・滑車	4点	宝仙寺
五月人形	一式	松岡貞子
8㎜映写機ほか	一式	丸山三夫
罹災証明書	一式	畠山妙子
べっこう髪飾り	14点	牛腸泰一
郷土史資料	1冊	石森敏朗
写真（戦前の北京）	一式	大島正太郎
お雛さま	一式	田中敏子
お雛さま	一式	今野一義
鷺宮御嶽講掛軸	1幅	篠崎　繁
戦前日用品	一式	東風谷ゆき
組紐製作台ほか	一式	田中つる代

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

入館状況

2002年3月～8月（延152日間）（人）

一般	社教団体	学校教育	合計
17,909	245	726	18,880

発行年月日2002年10月1日
編集・発行　山崎記念 中野区立歴史民俗資料館
〒165-0022　東京都中野区江古田 4－3－4
☎03（3319）9221 FAX03（3319）9119
（印刷物登録番号　14中教生第3号）

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています